



シリーズ

追跡指令

気になる！一般質問のその後！！

今回の指令

地域おこし協力隊のその後を追跡せよ！！

平成29年度からスタートした地域おこし協力隊。活動期間は最長3年で、「地域協力活動」を通じ、地域の活力の維持および強化を図っている。地域おこし協力隊の活躍のようすはどのようなものがあるのか、また、活動期間終了後の定住につながっているのか。

今回は、「地域おこし協力隊」のその後を追跡し、報告せよ！！



地域おこし協力隊に関する追跡調査報告書

令和2年4月1日現在の隊員数は11名。隊員の皆さんは、産業政策課をはじめ、まちづくり支援課、観光振興課、各支所にて活動されています。

平成29年11月に着任された山田恭史隊員は、51の地区振興会を対象に情報発信の支援やサポート、天草地域のコミュニティに関する情報サイト「Amakusa ググる」を新たに開設されました。このサイトでは、天草地域のイベント、風景、特産品などの情報を発信しており、8月末現在、アクセスは100万件にのぼっています。また、各地域のイベントなどに参加し、地域の魅力、課題、資源の活用などのアドバイスを行ってこられました。



▲バイヤーさんへ商品説明をする山田隊員(右手前)

平成30年5月に着任された北野達栄隊員は、新和町において繁茂する竹を一つの地域資源と捉え、竹細工や竹灯籠を通じたまちづくりを、地元の方と一体となり取り組んでおられます。さらに、新和はまぼう祭りに、ハーバリウム制作体験を企画したり、碓石地区における土着菌堆肥の新たなパッケージ制作による販売促進など、地域と密着した活動を行っておられます。

ほかの隊員も、地域の祭りの復活、フットパスや写真展の開催など、新たな地域資源の開拓に力を注いでおられます。

また、隊員の多くは、任期を終えた後も市内での就職や起業を希望しておられ、「天草に定住し、地域とつながりをもっていきたい」とのことでした。

▼土着菌堆肥の新パッケージ

▼Amakusa
ググる
QRコード



熊本県天草市新和町にある堆肥工場で国産の原料のみを使用し製造しています
原料 牛糞・土着菌・油粕・粉炭・木酢液 (PH6.8 N2.0 P3.07 K2.04)
生産者 碓石地区振興会 第H21-12号

編集後記

あえて環境を変化させて、自身の技術を磨きその執念で五輪復活劇をとげた、卓球の水谷選手は次のように述べています。

「同じことをやっていけばいいと思った時点で、それは退化していることと同じ」、「長くトップを維持するということは、時代の変化に適応していくということ」

周囲の評価や環境の変化を理由に、「自分はもうダメだ」と諦めるのは簡単ですが、成長はそこで止まります。どんなときも、自身の可能性を信じて挑戦を貫けば、必ず新しい自分が見つかります。コロナ禍が社会を変化させつつある中で、それに適応するには大変な努力を要しますが、だからこそ、自分らしく、粘り強く前進を続けたいものです。

(五通俊作)

広報広聴委員会



鶴戸 継啓



副委員長
五通 俊作



委員長
蓮池 良正



門口 徹



柴田 誠



下田 昇一郎